

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	当運営理念にも掲げている通りに「住み慣れた地域で残された機能を生かし自分らしく生きがいのもてる生活を送ってほしい」を目標に、ケアサービスにあたっている。		
2 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ケア理念を共有し職員はカードにして常に持ち歩き、日々理念を実践している		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ケア理念の中に地域の中で住み慣れて地域での生活を維持していくとうたっており地域での行事などにも出来るだけ参加している。又町内会の方にもグループホームの行事にも参加してもらい理解してもらえるようにしている。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩などに行った時など挨拶を交わしたり、グループホームの行事などにも誘っている		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会のお祭りや廃品回収、その他の行事にも参加して交流を深めている。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	避難訓練や災害時などグループホームでお手伝い出来ることなどあると思われるので町内会長さんの方へ話している。車いすを必要とされる方もいると思うので使い方などの説明や実際に車いすを使っている移動など。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価して頂いた事をスタッフと共有し今後の運営体制について話し合いを行いよりよいケアが出来るようにしている。		
8 運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度運営推進会議を行い入居者の状況を報告しているまた市役所や家族、地域包括センターの方にも出席していただき意見などを伺っている。前回評価後の開催時には改善点など話し合っている。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市職員との直積的に交流する機会は少ない。制度改正などの時に連絡をして助言などいただいている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	入居者で成年後見人制度を利用しなければならない方はいない。6月に登別市で行われた成年後見人制度の講習会に出席し勉強させてもらっている。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない注意を払い、防止に努めている。	職員の研修時に高齢者虐待防止について勉強した。普段のケアのあり方について施設長と一緒にスタッフとも話し合いケアの見直しをして、そのようなことのないようお互いに注意しあうようにしている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居が決まると自宅を訪問して本人や家族とも面談をし不安がないように話しをしている。契約時には重要事項説明書をお互い読みあい確認して疑問があれば質問してもらい安心して入居してもらえるようにしている。解約時には十分な説明をして理解してもらい不安のないようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者さんから苦情や不満など聞かされた時にはしっかりと傾聴し管理日誌にも記載し、必要に応じて閲覧出来るようになっている。又職員間でも話し合いをして改善し同じようなことが起こらないようにしている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	日常生活内容や健康状態などは毎月「月次報告書」を作成し送付している。金銭管理などは請求書に送付している。管理者の異動もあったが月次報告書に書いて家族からの理解を得ている。急な健康状態などに変化があればその都度電話で連絡するようにしている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族からの苦情は管理者が受けその都度施設長とも話し合い管理日誌にも記載して職員にも報告改善に取り組んでいる。推進会議の時にも報告をしている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	施設長も出席しユニット会議を2ヶ月に1度の割合で開きスタッフの意見など聞き反映させている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	その時の状況に合わせてパートの介護職員を配置している。行事など前もって予定できる時には職員を増員している。夜間の緊急時に対応出来るように待機当番表を作成し夜勤者が毎日確認している。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	定年退職や異動等でスタッフが変わる場合、利用者への影響を考えできるだけ早く新しい職員を採用して引継ぎを行うようにしている。職員の異動に関しては、ユニットの職員同志の関係、入居者との関係を踏まえて、異動が適切と考えた場合に行っている。(職員の希望を受け入れる場合もある。)		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内では、新規職員研修やリーダー研修など、少人数で計画して研修を行っている。法人外の研修も参加するよう声をかけている。必要な研修は運営者、管理者で相談して、出張として職員に研修に参加してもらうようにしている。昨年より法人内で事例発表会を行うことにより、各ユニットで行ってきた介護をふりかえり、また新たな気持ちで介護に取り組めるように考えている。		今後は法人外の研修にももう少し積極的に参加するよう勤めていきたい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者は、胆振地区の広域連絡会に参加し同業者との交流を図り、講演会、勉強会などにも参加してそれを職員に伝えている。登別市の事例検討会にも参加するようにしている。		登別地区での同業者との交流を増やしていきたいと考えている。もう少し外部の研修にスタッフも積極的に参加できるようにしていきたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	ミーティングや法人内研修などでストレスのことを取り上げ、自分だけではなく皆も同じように感じているなど共有しあうようにしたり、人事考課を行いながら運営者と面談の機会を持ち、悩みやストレスに関して話せる場を持つ。また、職員の様子を見ながら必要に応じ、管理者との面談、運営者との面談をその都度行っている。		もう少し職員が相談しやすい状況を考えていきたいと思っている。
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	業務上の役割や事例発表等を通して、段階を追って職員に役割を与え、達成感もてるようにしている。		実績を評価して具体的にほめたり、人事考課の結果を賞与等に反映して、もう少し職員にわかるように評価してあげたいと考えている。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居相談に始まり申込書を受け取り自宅訪問など行ない本人や家族とも面談をして不安な事やグループホームに対する希望など聞き受け止める対応をしている。		
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	上記にも記載しているように家族などにもお話を聞きながら対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居相談を受けた際には、担当のケアマネジャーとも連絡し他のサービスも含めた対応がないかをしている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に見学に来てもらい居室など見てもらったり他の入居者さんの状況を見たりしてふ困気を感じてもらおうようにしている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者さんの中にはいろいろな特技を持つ方もいらっやって職員が教えられる事が多い。介護する側に置いても「自立支援」も念頭におきながら対応している。感情が不安定になる入居者さんもあり職員は最善の声かけを行ないながら対応している。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族とのかかわりは面会時が多くスタッフも一緒に同席して近況を報告したり世間話を一緒にしたりして喜怒哀楽をともにできるようにしている		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	センター方式B4使用して家族関係を全スタッフが把握している。行事などにも参加して貰ってよりよい関係が築けるように努めている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族や友人などの写真など各入居者さん本人の居室にあり、又面会時や誕生会等の際の記念写真など飾っている。又、今まで行なっていたという夕食会に誘いにきてくれたり友人と一緒に外出している入居者さんもいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	毎日行なっているラジオ体操やレク等も助け合いながら行なっている様子が見られる。元気な入居者さんが手助けしたりする光景も見られる。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約が終了する事は入居者さんが入院する事が多く家族からも連絡などもなくなり今までのような付き合いは出来ない部分がある。上田病院などに入院した場合は家族とも会える事もあるので近況なども報告している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自分の意思をいえる方は本人と話し合い希望など聞きながら対応している。困難な方は家族と話をしてその都度状況判断し職員同士話し合いながら対応している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式B4使用して生活歴など把握している。又普段の会話の中からも昔の事など引き出すようにしたり、話題にしたりするようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	その人にあった過ごし方など職員が把握して一人一人のニーズにあった暮らし方、生活が出来るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご家族、本人からケアについての要望や意見など反映し、又その時の入居者さんの状況をアセスメントを行いその後サービス担当者会議などで職員にもケア内容を理解して貰いプランの作成を行ない対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月のモニタリングで入居者さんの状況を把握しプランに変更を生じた場合は家族や本人とも話し合い、見直しをして新たに計画を作成し職員にも理解を求め対応している。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	毎日の生活内容などは介護記録に記録してケアプランの実践や結果など職員が情報を共有している。特に何かあった時には申し送りノートなどにも記載して職員が見て対応できるようにしている。モニタリングなど行い介護計画の見直しなどにも役立てている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	何か合ったらその都度家族には連絡している。疾病などに関しては上田病院受診し必要に応じて上田病院院長から家族に連絡して状況説明などして貰っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員の方は推進会議等にも出席してもらっている。その他の行事などにも参加して貰っている。近所の小学校の生徒さんがボランティアで年に2回訪問してくれたり避難訓練を年に2回行い消防署の協力を得ている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	リハビリを必要している入居者さんがいるため上田病院のほうから週2回PTきてくれてリハビリを受けている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現在要支援の入居者さんがおらず直接、地域包括センターとの協働はないが、常に情報交換を行っているので必要性が出た場合は順応に対応できるようになっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員、訪問看護師による相談、又月に数回「健康相談」にて医師が来訪し健康管理、医療活用支援を行なっている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症専門ではないが上田病院院長に診てもらい、認知症に関しての相談や治療を受けられる状態になっている。専門的な治療が必要になった場合は紹介状をかいってもらって受診できるようになっている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員、訪問看護師共に確保している。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	早期退院に向けて関係者との連絡、調整を行い入院時にも介護添書を提出している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末期覚書、入居時に終末期について説明、同意を得ている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	看取りに関する指針にて看取り介護の実施方法記載、変化に備えて検討もしくは実施できるよう準備している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	グループホームから他の居宅へ移った方はいない。入居時には自宅で使用している家具や寝具などを持ってきてもらうようにしてそれを使用している。今のところ家具や寝具などで大きな混乱はない。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	各職員に対して入居者さんに対する「言葉使い」に対しては常日頃から注意している。入居者さん個人個人の性格など熟知しそれぞれの合った対応をしている。介護記録や個人情報に関しては各ファイルにて棚に厳重に保管している。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	入居者さんの思いなどが表せるようにいつも職員が入居者さんと話をして本人の思いが表現できるように努めている。食べ物や飲み物の好みなども本人から聞きながら提供している。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事や入浴など入居者さんのペースにあわせて対応するようにしている。レクや毎日の生活も無理強いすることなく本人の希望などを聞きながら行なっている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	美容に関しては近所の美容院へ2ヶ月に1度の割合で連れて行っている。又行きつけの美容室へ行っている入居者さんもいる。グループホームへきてくれている美容院さんもあり入居者さんの好むように選んで貰っている。男性は奥様が面会時に散髪してくれる方や外出時に床屋に行っている方などいる。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	出来るだけ本人の好みに合うように工夫して献立を考えている。食事の支度などは出来る方には参加して貰い野菜の皮剥きや、茶碗洗いなどの参加して貰っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲酒、喫煙している方はいない。嗜好品コーヒー等は本人が希望するときに提供しているおやつ等も入居者さんに聞きながら飲みたいものや食べたいものなどを出している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	失禁の見られるには時間ごとに声かけ誘導している。自力でトイレに行っている方は本人のプライバシーを尊重して傷つかわないようにさり気なく汚染などの確認をしている。こまめに声かけする事によって日中はリハビリパンツを止め布パンツに変更した方もいる		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居者さんに確認しながら入りたい時に入って貰うようにしている。だいたいそれぞれで曜日なども決まっているがその時の本人の状況により入りたくない時には無理しないで清拭のみ行うなどしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	本人の訴えにより湿布の対応など入居者さんの状況に応じて安心して眠られるように室内の換気や明かりなど気をつけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入居者一人一人の生活歴など考えて本人のできる事をやって貰えるよう生活に楽しみや生きがいを持てるように支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	認知力の低下もあり入居者さんがお金を持っている方は少ない。ある程度お金を理解できる方には財布を持ってもらい消耗品など一緒に買いに行っている。他の方は預かり金で事務所まで預かり必要に応じていつでも使用できるようになっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	冬期間以外は天気の良い日は駐車場などでお茶を飲んだり日光浴を楽しみ、近所の公園に散歩に行ったりしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみない普段はいけないうちに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	年間行事で水族館や壮警のぶどう狩り等へ出かけている。又登別市の植物園などドライブがてら行っている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	手紙を書く方はいないが、電話をかけたいというに入居者さんには本人がかけていと訴えた時には一緒に1階公衆電話にてお話をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族やお友達など来訪した時にはゆっくりとお話できるようにスペースを確保し、お茶など提供して楽しく過ごせるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置しており、管理者や職員で勉強会を開いている。身体拘束している方はいない。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員も鍵をかけることに対するの弊害なども理解しており、日中リビングドアには鍵がかかっておらず自由に出入りできるようになっている。玄関も夜間のみ施錠している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	夜間は2時間毎の見回りを行い日中は自室で過ごしている入居者さんには1時間毎確認しリビングなどで過ごしている方には職員が目くばりをして安全に過ごせるように支援している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意が必要な物品は保管場所を統一している夜間も確認している。危険なものに対してはタオルなどで保護している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒等があったときにはヒヤリハット事故報告書を作成に同じ事が起こらないように職員同士で改善方法などを話し合っている。		
70 急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時対応マニュアルにそって定期的に確認している。夜間は待機者を決めて緊急時に対応できるようにしている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に2回避難訓練を行っている。今回は夜勤を想定してスタッフ1人で訓練に挑んだこれからも継続していき全スタッフがきちんと対応できるようにしていきたい。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居者さんのレベルの低下に伴い疾患や転倒などのリスクに対してご家族とも話し合っている。又緊急を要する場合は電話連絡などで対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日血圧測定時に体調不良の訴え等確認している。常日頃から観察を行い異変が見られたら早急に看護しに連絡をし医師の指示を仰いでいる。又職員同士も情報を共有し直ぐに対応できるようにしている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者さんのカルテに処方箋の説明書をいれてある。職員も各自確認し新しく処方された薬に対しては申し送り際に話している。また申し送りのノートや介護記録などで確認するようにしている。毎日の観察を行い症状の変化が見られたら看護士に報告助言をもらっている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便に関しては毎日便の確認を行っている。食物繊維の多い食品やプルーン、ヨーグルトなどを定期的に摂取してもらいスムーズに排便できるようにしている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後に各入居者さん全員に声かけし歯磨きを促している。介助しなければならない方もいるが声かけし納得してもらってから口腔ケアを行っている。洗面台に遠い入居者さんもいるので洗面器など使用して行ってもらっている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事は各入居者さん毎に主食の摂取量を決めて提供している。水分量に関しては一度に沢山飲めない方もおりこまめに飲んでももらえるようにしている。いずれも介護記録に記載を確認しながら水分量の少ない方は好みの物を提供している。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員は出勤時には必ずうがいと手洗いをしている。面会者にも同様をお願いしている。入居者さんもお外出時帰ったら手洗いとうがいをやっている。ノロウイルスに関しては食器類の煮沸消毒やいざというときのノロセットを準備している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>上記記載通りに食器などは煮沸消毒を行い、まな板やふきんなども毎日塩素系の消毒剤で消毒をしている。天気の良い日は日光消毒なども行っている。又食材に関しては買い物の際必ず賞味期限を確認して買うようにしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関周りには花壇を作り入居者さんと一緒に手入れをしている。町内会からの協力もあり花畑なども充実してきている。ベンチを設置して気軽に休憩してもらえるようにしている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用の空間に関しては不快な音がないように配慮し、光なども日差しが強い時はレースのカーテンなどで調節している。季節感が感じられるようにその季節のお花や飾り物を飾って楽しんでもらえるようにしている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ソファや廊下のベンチなど各入居者さんが思い思いに休めるように配慮している。また仲の良い方同士で会話したりお茶を飲むスペースを確保している。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居時に自宅で使用していた家具なども持ち込みをお願いしている。各入居者さんが住み良いうように家族の方と話し合いをしてテレビの配置やお人形など馴染みの物を持ち込んでもらっている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>日中、夜間共に温度調節を行い、時々窓を開けて換気などにも気を配っている。乾燥しやすい季節にはバスタオルを濡らして干したりカーテンにスプレーで水をかけて湿度を保ったりしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p> <p>全ての通路に手すりを設置し、廊下などにも滑りやすい状況になっていないか確認し、歩行のじゃまになる物を置かないように配慮している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p> <p>その人1人1人の能力を職員は自覚し、排泄や食事など日常生活が自力で行えるように声かけし出来るところは時間がかかってもやってもらうようにしている。失禁など見られたら自尊心を傷つけないように注意して対応している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p> <p>天気の良い日はベランダに洗濯物を入居者さんと一緒に干しに行ったり、外の花畑の前にベンチを設置し日中皆さんで日光浴など楽しんでもらえるようにしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2 / 3くらいが 職員の1 / 3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2 / 3くらいが 利用者の1 / 3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2 / 3くらいが 家族等の1 / 3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)